

iPod 想定外

米アップルコンピュータのデジタル携帯音楽プレーヤー「iPod」の利用が落語、教育など、音楽を聴く以外の用途で広がっている。大量の音声データを持ち歩ける特性を生かしたアイデアには、アップルも予想しなかったものもあるという。

(志村亮)



「iPod」を通じて落語の魅力伝える古今亭志ん太さん

落語 無料配信大入り

「にふ亭」は、インターネット接続サービス大手のニフティが昨年8月に始めた、iPodなどの携帯端末向け無料落語番組。パソコンを通じて音声情報をダウンロードする「ポッドキャストイング」を利用する。12月からは映像の配信も始めた。月間ダウンロード数は15万件で、iPod向けにある約2万5千番組の中でも人気ランキング18位(17日現在)と大健闘。通勤中に聴くには、30分程度の古典落語は打って付け、という点も支持が広がる一因らしい。

美術館 画家が作品紹介

つ返事で引き受けました。東京都現代美術館は、先月から展覧会情報などの番組配信を始めた。今月21日からの日本画展では画家本人が作品を紹介するプログラムを配信。ダウンロードしておけば、iPodで解説を聞きながら鑑賞できる。

教育現場では、大阪女学院大学が新入生全員にiPodを購入させて2年目になる。学生は英語教材のデータを定期的にダウンロードし、発音や聞き取りの自主学習に役立てる。

資格予備校大手の東京リーガルマインドは04年9月に「iPodクラス」を開設。司法書士などの資格取得講座をあらかじめダウンロードしたiPodを生徒に販売している。

こうした動きに、アップルは大学などの教員・生徒を対象にiPodを7%割引でネット販売するなど、教育機関向けの営業を強化している。